

Ⅲ 小・中合同部会

特別支援教育部会

研究主題 一人一人の個性を生かしながら，社会適応能力を高めるための自立活動の在り方

1 主題について

今年度は，一人一人の個性を生かしながら，社会適応能力を高め，広げるための支援の在り方の研究テーマをうけ，本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 ・研究主題，年間計画の作成	11月11日	第2回総合研究会（城南小学校） 授業研究会・テーマ研究

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年11月11日（金）
- ・会 場 大館市立城南小学校
- ・題材名 「風船バレーボールをしよう」
- ・授業者 嶋崎 幸男，梅田 由美

① 授業者から

- ・風船バレーボールを続ける中で子どもたちは積極的に活動するようになってきた。
- ・ルールを設定することでより意欲的になり，より高い課題へ取り組むようになった。
- ・役割を果たす面では，何回か繰り返しているうちにできるようになってきた。
- ・コミュニケーション面では，「がんばれ」などの励ましの言葉が出るようになった。

② 協 議

(ア) パスやハイタッチなどルールを守りながら協力してバレーボールをするための設定はされていたか。

- ・子供同士がパスする際に相手の名前を呼ぶこと，励ましの声かけをすることが，協力して 行うという姿勢につながっていた。
- ・教師の認め，励ましの言葉がその場その場で掛けられていてよかった。
- ・ルールの説明がボールを使って具体的に行われていて，わかりやすかった。
- ・ルールを判断する審判の○×があってよかった
- ・協力して行うための作戦タイムがあってよかった。
- ・コミュニケーションという面では，「どんまい」「いいぞ」などの言葉かけの例示の掲示があってもよかったのではないか。
- ・ダンボールネットは相手の動きが見えなかった。協力という面では，相手の動きを見ながらパスをするというほうがよかったのではないか。

(イ) 与えられた役割が個々に適切で，役割を果たすための支援は充分であったか。

- ・個々に応じた役割分担がされていた。支援も子どもの実態に合わせて行われていた。マイクが用意されたり，得点板に貼るチームの絵カードが準備されたりしてよかった。発表する際も，言葉での発表が困難な児童に対しては，写真を選んで発表するようにしてよかった。
- ・用具係はもう準備されていたので今日の役割がなかった。一人一役あってもよかったのではないか。
- ・最後に役割や動きに対してメダルが用意されており，子どもの励みになっていた。
- ・コミュニケーションの指導では，声かけのタイミング，どんな言葉をかけるのかなど

を教師がやってみせてもよかったのではないか。

- ・全体のめあては確認できていたが、今日の授業の中で、子どもたちが何をがんばるのかの確認があってもよかったのではないか。
- ・個々のめあての掲示があってもよかった。

(ウ) その他

- ・風船バレーボールは児童の実態に合った題材であった。
- ・準備体操のDVD、集合場所のラインテープなどの視覚支援がよかった。
- ・準備体操、教師示範のゆっくりめのストレッチは子どもの実態に合っていた。



【風船バレーボールの様子】

③ テーマ研究

桂城小学校間嶋祐樹先生から、特別支援学級の児童だけでなく、その子を取り巻く周りの児童の指導も必要であること、長木小学校田村知子先生から、障害を持つ人がたくましく生きている実践例を紹介し子どもに将来への夢をもたせていること、東館小学校佐藤和春先生から、ソーシャルスキルトレーニングをする際に市販の教材をそのまま使うのではなく児童の実態に即してアレンジして使っていること、早口小学校伊藤誠子先生から、心理的安定の面から意図的にある心理状態になるようにし、そのときにはどうするかを指導していること、などの話題がグループに提供され、グループから全体の場にも報告される。

④ 指導助言(菅原 文子 比内養護学校たかのす分校教頭)

- ・今までの授業の積み重ね、視覚教材の活用により、子どもが見通しをもって授業に参加していた。
- ・45分間の学習活動が大変わかりやすかった。準備運動(ドンスカぱんぱん)、メインの活動、振り返りの一連の活動が子どもたちに合っていた。
- ・準備運動にメイン活動で必要となる上肢の運動がふんだんに取り入れられていた。
- ・良い面を伸ばすかわり、できたときにすぐにほめる、できたことをみんなに紹介するというかわり方が子どもの成長を促していた。
- ・指導案を書く際に、子どもの実態から導き出した題材で育てたい力と題材の目標とがつながるように、また、個別のねらいを達成するため、教師がどのように支援するかが見えてくるような書き方をしてほしい。
- ・一時間の授業の始めに、子ども一人一人のねらいを提示し、子どもが目的意識をもって学習に臨むようにしてほしい。そして、そのねらいが達成されたことを評価してほしい。
- ・学習指導要領の自立活動編に書かれている指導計画の作成手順を再確認して授業に臨んでほしい。子どもが主体的に取り組むために、子どもが目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結びついたと実感できるものにすることが大切である。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・児童の実態に即した支援として、準備運動のDVD、集合位置のラインテープなどの視覚支援は有効であった。
- ・児童ができたときタイミングよくほめる、みんなに知らせることは児童の意欲を促進させる。
- ・各校の自立活動の実践においても子どもをほめることが大事であることが確認できた。

(2) 課題

- ・題材、単元の目標だけでなく一時間の中で児童一人一人が何をめあてとして活動するのかを確認すること、達成するための支援、さらにその達成度を評価してあげること。
- ・その都度声をかける支援から、声かけがなくてもできるための支援の在り方。
- ・子どもが楽しんで取り組める実践を行うために教材教具をいかに子どもに合わせていくのかということ。